



中国 四川省 成都市の現状 - 沙河環境景観概念設計国際コンペを通じて -

The present condition of Chengdu in Sichuan, China
- Learning through International Design Competition of Environment Landscape Concept

齋藤直人

SAITO Naoto

株式会社 協和コンサルタンツ
東京事業部/計画部/マネージャー



成都市は、中国、四川省の省都である。沿岸から1,000km以上の内陸に位置し、北京や上海等に比べ未だ経済格差があるものの、国家プロジェクト「西部大開発戦略」により今後の発展が大きく期待されている。

2002年7月26日、私たちは成都市東部を流れる「沙河」という河川の環境景観概念設計国際コンペに参加し、当地の自然、社会経済や文化等について多くを見聞した。ここにその現状やコンペの概要について紹介する。

1. 中国・四川省・成都の概要

1 中国

中国は人口12億7,000万人の大国であり、世界でも有数の経済成長率を誇る。特に昨年のWTO加盟は中国のグローバリズムを加速させ、さらに2008年の北京オリンピック開催等も活気を与える基となっている。

中国にとって日本は、有数の貿易相手国である。1972年の日中国交正常化から30周年にあたる2002年は、両国において「日本年」「中国年」とし、文化、経済、観光、教育等幅広い分野の事業が展開されている。



図2 - 成都市区部と沙河

3 成都市

成都市は、四川省の中心に位置する省都であり、面積12,400km²、人口1,020万人(2001年)の市である。そのうち市区面積は208km²、人口336万人であり、これはちょうど横浜市の半分の面積に、横浜市的全人口が住む規模に相当する。従って成都市区部の人口密度は異常に高い。

高速道路や都市部環状線の開発整備が進行中であり、成都空港は中国6大空港の1つとして便数も多く、中国西南部における政治、経済、文化の中心を担っている。刃物、紡績、漆器等の工業が立地し、劉備の墓を祀る武侯祠などをはじめ歴史的建造物も多くある。

気候は亜熱帯性気候であるが、四季がはっきりしており夏場は大変暑い。また、一年中霧がかかったような曇空が多く、「太陽が顔を出すと犬が吠える」という謂れは有名である。

なお、図2に示した「沙河(延長22km)」は、私たちが参加した国際コンペの対象河川である。

2 四川省

四川省は、中国西南地方に位置する面積約50万km²、人口約8,500万人(1998年)の省であり、面積は日本の1.4倍、人口は0.7倍に相当する。

中央には広大な四川盆地が広がり、大自然と雨に恵まれた耕作地は、農作物も豊富なため「天府の国(天から授けられた豊かな土地)」と呼ばれている。

三国志の蜀の国、世界遺産の峨眉山、九寨溝・黄龍、またパンダなどでも有名であり、最近では成田~成都の中国直行便も就航し、日本からも身近な場所になりつつある。

2. 最近の成都事情

成都市の中心部は、狭いながらも日本と変わらないような繁華街が活気に満ちている(写真1、2)。ネオンも賑やかで、近年進出してきたマクドナルドやイトーヨーカ堂が大人気であった。

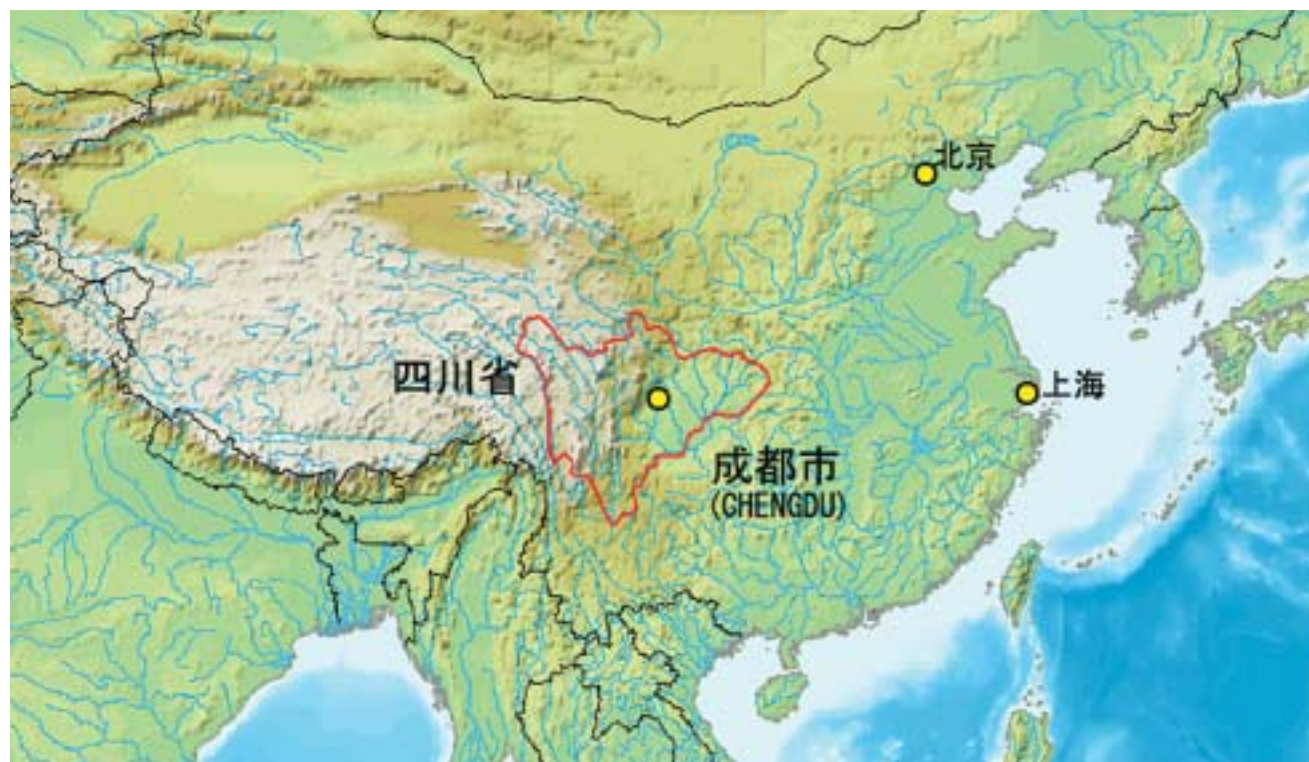


図1 - 成都市の位置



写真1 - 成都市の繁華街



写真2 - 成都市繁華街の夜



写真3 - 路地に広がる市場



写真4 - 築30年以上の家並み



写真5 - 緑あふれる市内



写真6 - 公園で喫茶を楽しむ人々

とはいえ、一步路地裏に踏み込むと、道端には市場が広がり、古い家並みが続いていた(写真3、4)。こうした古い街並みは、都市再生を目指す市の施策によって、急速に減少しているようだ。確かに、市内のスクラップアンドビルドは、日本では想像しがたいほど激しい。中国では土地が国家所有であり、宅地等も全て国からの借地形態であることなどから、インフラ整備等は大胆かつスピーディに実行されるのだそうである。

整備開発が進む成都市ではあるが、街の緑量は大変豊かであった。四季はあるが積雪はなく、植物の生長はとても旺盛で、緑溢れるビルの屋上が多く見られた(写真5)。街路樹は、なぜか帰化植物のプラタナスが多く、凄まじい枝張りに時折バスがぶつかりながら走っていくそうである。

そして心地よさそうな緑陰の下では、4人掛けのテーブルで「一茶一座」を楽しむ四川人の姿があちこちで見られる。「一茶一座」、それは供される1杯のお茶と1つの座席で、後は自由に楽しむ、という四川流喫茶の精

神だそうである(写真6)。

3. 国際コンペの概要

ここで、私たちが参加した国際コンペ「沙河環境景観概念設計」について少し紹介する。

舞台となった沙河は、市東部を北から南に流れる延長22kmの河川である(図2)。成都市の計画では、2002～2006年の5箇年で、ここに新たな住宅や商業地区等を形成し、全面的に都市の印象を改善して、沙河を成都市の「都市名刺」にする、としている。沙河の汚染対策、河川整備、周辺道路及び宅地等整備、環境景観整備など7大類から成る「成都市沙河総合整治プロジェクト」の推進である。

本コンペは、このプロジェクトのうち最も重要な部分とされる「環境景観整備」にあたるもので、沙河22kmをA・B・Cの3区間に区切り、河川兩岸の帯状緑地、河川護岸、道路等の環境景観についての概念設計(日本の基本構想・設計レベルに相当)を行い、その整備コン

セプトを競ったものである。

1 河を中心としたコンセプト

成都市の北西には、チベット高原地帯に端を発する岷江に、世界遺産として有名な水利施設「都江堰」がある。成都の治水に関わる歴史は古く、私たちは現地概況及び周辺土地利用、成都の歴史と文化を十分調査するなかで、沙河の緑地環境景観整備における河の自然との関わりや河中心の文化創造の必要性を解いた。

そこで設計コンセプトを「自然生態復興と文化継承による河川文化の創造」とし、具体的には、子供たちに河の歴史や文化を理解させ、水辺の自然に触れ豊かな心を育てる場としての「河浜学園」や伝統的河川治水技術から最新技術を実際の河川整備に散りばめ、人類の治水技術の発展過程を標すという「治水技術小品展示」などを提案した。その他全体に渡り、自然豊かかつ洗練された空間づくりを提案した(図3)。

2 設計案の製作

提出品目は、コンセプトやゾーニング計画等の設計説明をはじめ、1:1000の全体平面図、造成及び標準横断面図、モニュメント及び光彩照明計画、景観パース、CG動画に及び極めて膨大なものとなった。与えられた製作期間は僅か2ヵ月間であったが、私たちは当社の成都事務所と電子メール等を活用した効率的かつ綿密な情報交流によって、「中国語による製作」という難関も無事クリアすることができた。

3 プレゼンテーション

7月26日、国際審査を含む入札評価委員15名に対し、CG動画を主体としたプレゼンテーションを行った(図4、5)。プレゼンは、私のたどたどしい中国語の挨拶によって、評価委員の方々の爆笑と拍手から始まった。質疑応答を含め100分間の発表では、審査委員の方々から主に自然環境保全に関する考え方を確認するような質問を多く受け、その他、極力簡素な休閒空間を目指した私たちの提案に対してSimple is best!であるとか、「現地をよく見て地域に合った考え方をしている」等の賞賛の声も頂戴することができた。

4. 国際コンペを終えて - 私が感じた成都 -

1 「優秀設計1等賞」を受賞

私たちが参加した「沙河環境景観概念設計」国際コンペは、8月1日にその結果通知が届いた。それは、「株式会社協和コンサルタンツ 優秀設計1等賞受賞、ならびにC区間落札」という内容であった。

本コンペでは、オーストラリアやシンガポールを始め、地元の四川省や北京、上海など多数の企業が参加し、全部で22編もの発表があった。その中で唯一当社だけが1等を受賞できたということは、非常に感慨深く、喜びはひとしおである。その背景には、文化や環境教育的要素を強く導入した、河を中心としたコンセプトがあったことがあげられる。

2 私が感じた成都そして中国

整備・開発が進む成都では、例えば公園や住宅地開発等において(私たちから見て)何でもあり的な派手な設計”が横行しているように感じられた。コンペ実施にあたり、私たちは、こうした現状とディテールをどう認識すべきか議論した。コンペに勝つためには、相手に“うける”必要もある。しかし結果として私たちは、それらを意識せず、逆に成都市民の「暮らし方や文化・習慣」を最大限に意識し、世界標準ともいえる自然環境や文化教育等のキーワードをベースに提案を行った。これが評価委員の方々に深く理解され、今回の受賞を勝ち得たものと感じている。

なおコンペ後、全ての作品は市民の前に約2週間展覧され、市民の意見が聴取された(写真7)。いわゆるPI(パブリック・インボルメント)の実施であり、こうした動向もやはり世界標準なのかと感じた次第である。

中国はWTO加盟により、貿易面でも世界標準になるようしている。知的財産権保護や外資参入制限の縮小、建築設計を含むサービス分野等の市場開放に向かっており、今後私たち日本の建設コンサルタントがODA以外でも中国で幅広く活躍する時代が到来すると期待される。現在、当社ではコンペ優勝に継続して、沙河の方案設計及び施工図作成(日本の詳細設計、実施設計レベルに相当)を実施中である。そうした中、成都市の隣接市であるチョンライ市からも、同様の景観概念設計の引き合いがあって随意契約を結ぶなど、順調なビジネスが展開されている。しかし一方では、コンペのライバルとして目の当たりにした中国国内の設計院の実力(表現力等)も相当なものであり、私たちは今後も益々技術向上に心がけ、頑張っていかなければならないと感じているところである。

成都には、劉備の墓「武侯祠」や、近傍には2000年に世界遺産となった「都江堰(2200年前に築造された岷江の灌漑・治水施設)」など観光スポットも多くある。成田～成都間の直行便就航によって、日本から約5時間と近くなった成都、皆さんもぜひ一度訪れてみてはいかがだろうか。

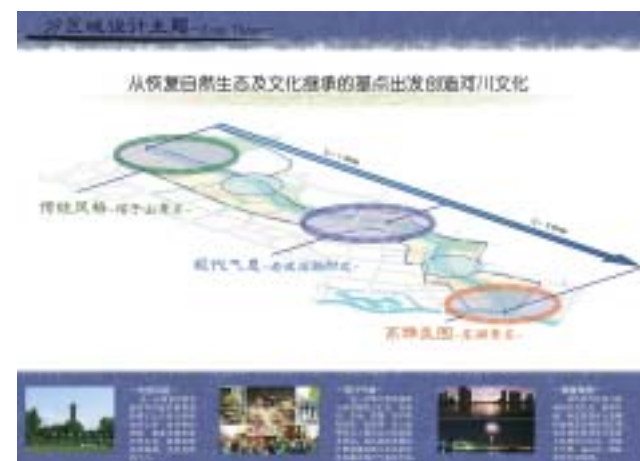


図3 - 提案したゾーニング図



図4 - 製作したCG画像(塔子山夜景)



図5 - 製作したCG画像(多自然型護岸)



写真7 - 市民展覧に供された私たちの作品